

私の教師生活を支えてくれた児童詩教育の柱が消えてしまうのは、とても残念なことだ。こどもたちの詩は、いつも躓いた私を救ってくれた。学級崩壊だな、もうだめだ、と思う教室でも、こどもの詩が私を救ってくれた。

◆がっこう、さらばじゃ

中筋小 一年 はるき

やったあ、なつやすみだ
もうすぐ、がっこうはさらばになる
が、
しゅくだいプリントが40まいあるぞ。
ああ、じかんがもったいない。
あそびじかんがなくなるぞ。

◆せんせい いいひと

橋上小 一年 あゆみ

わたしがべんきょうしていたら
まちがえたっていったら
せんせいはやさしく
まちがえは、だれにもある
っていいました
わたしは
せんせい やさしいなって
ころでおもいました。

現場を離れてもう 10 年近くなる。読み聞かせのボランティアで月に一度学校へ行っているが、教室を覗くと、タブレットを操作している 1 年生を見て驚く。時代が変わっていくのを黙ってみていくしかない私だ。

◆めいれいは いやだ

佐賀小 一年 しゅうほ

きょうのよる、しゅくだいをした。
はじめに おかあさんが
「ししゃから しい。」
といった。
つぎに おとうさんが
「本よみを しい。」
といった。
ぼくは
じぶんで かってにやりたかったのに
めいれいをしないです。

